



君に似合う花

どんな環境になっても太ることが無かった

俊足なんて二つ名が似合う御転婆

本当は大好きな雄猫に喧嘩を売ることが愛情表現

君は元気の代名詞だったのに

発症さえしなかった病気の後遺症で何も食べられなくなった

酷い痛みには耐えられず自らを傷つける君に何をしてあげればよかった？

大好きな雄猫に寄り添って眠っていた冬の間

君は少しでも幸せだった？

一晩、思い出に浸って

小さなお葬式を済ませた。

君のかわりにと買ってきたのはランタナ

小さな花を咲かせて

君は何度も会いに来ればいい

気丈な君に似ていると思ったんだ

花が咲くたび君の話をしよう

君が大好きだった水無月に話して聞かせよう

おやすみ

おやすみ

10年間、傍にいてくれてありがとう



逝ってしまった愛猫 如月へ

君に似合う花

<http://p.booklog.jp/book/27678>

著者：猫屋雑猫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/27678>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/27678>